

サントリーホール 開館40周年記念  
Daiwa House Special

ホール・オペラ®

# タン・ドゥン：『TEA ~茶は魂の鏡~』

(全3幕・日本語&英語字幕付) [台本:タン・ドゥン、シュ・イン/英語翻訳:ダイアナ・リャオ]

作曲・指揮:タン・ドゥン  
演出:シャーウッド・フー  
装置:タン・ドゥン/シャーウッド・フー  
衣裳:桜井久美

聖禰(日本の高僧):マーテー・ヘルツェグ(バリトン)  
蘭(唐の皇女):ルーシー・フィッツ・ギボン(ソプラノ)  
唐の皇子:石井基幾(テノール)  
唐の皇帝:アポロ・ウォン(バス)  
陸(陸羽の娘):イン・デン(メゾ・ソプラノ)  
僧侶たち:新国立劇場合唱団

3人の打楽器奏者:  
チェンチュー・ロン/稲野珠緒/神田佳子  
東京フィルハーモニー交響楽団

舞台監督:蒲倉 潤(アートクリエイション)  
照明:喜多村 貴(劇光社)  
音響:山中洋一(サウンドわいわい)

Tan Dun, Composer / Conductor  
Sherwood Hu, Stage Director  
Tan Dun / Sherwood Hu, Set Design  
Kumi Sakurai, Costume Design

Seikyo (Japanese Monk): Máté Herczeg, Baritone  
Lan (Chinese Princess): Lucy Fitz Gibbon, Soprano  
Prince: Motoki Ishii, Tenor  
Emperor: Apollo Wong, Bass  
Lu (Daughter of Tea Sage Luyu): Ying Deng, Mezzo-Soprano  
Monks: New National Theatre Chorus  
Three Percussionists:  
Chuchu / Tamao Inano / Yoshiko Kanda  
Tokyo Philharmonic Orchestra

Jun Kabakura, Stage Manager (Artcreation)  
Takashi Kitamura, Lighting Design (Gekikosha)  
Yoichi Yamanaka, Sound Design (Sound waiwai)

『茶経』を巡る、究極の愛の物語  
世界で評判のサントリーホール委嘱作、

ついに20年ぶりの凱旋公演！(新演出)

Suntory Hall 40th Anniversary Programme  
Hall Opera® Tan Dun: *Tea: A Mirror of Soul*

(Opera in 3 acts / Sung in English with Japanese & English surtitles) [Libretto by: Tan Dun, Xu Ying / Translation into English: Diana Liao]

2026年7月3日(金)19:00開演(18:20開場)・4日(土)17:00開演(16:20開場)  
予定上演時間 約2時間15分(休憩1回)

サントリーホール 大ホール

主催:サントリーホール 特別協賛:大和ハウス工業株式会社 協力:日本中国文化交流協会

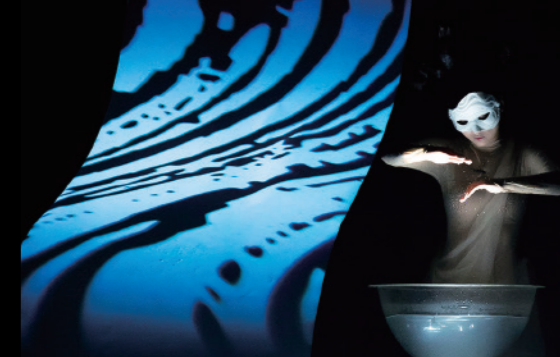


SUNTORY HALL  
この瞬間が、未来になる  
Moments that Shape the Future

# 「この作品には、東洋と西洋が、信仰とドラマが、愛と死が、見事なまでに融和している」——『Opera』誌 (2003年/ヨーロッパ初演評より)

サントリーホールが委嘱し、今世紀のオペラの中では圧倒的な再演回数を誇る、国際的作曲家タン・ドゥンの代表作『TEA ～茶は魂の鏡～』。2002年の世界初演以来、ヨーロッパ、中国、アメリカなど世界各地で上演され、「茶」をテーマとしたオペラから紡ぎ出される普遍的な「愛」のドラマと音楽は、高い人気を博してきました。

タン・ドゥンが絶大な信頼を寄せる気鋭の若手キャストと、中国を代表する映画監督・舞台演出家のシャーウッド・フーによる新プロダクションで、満を持してお届けするサントリーホールでの再々演をどうぞお見逃しなく！



写真：『TEA ～茶は魂の鏡～』2023年上海公演および25年福建省・福州公演

聖禱 (日本の高僧) — 発見/哲学      唐の皇子 — 怒  
 蘭 (唐の皇女) — 愛      唐の皇帝 — 伝統/文化      陸 (陸羽の娘) — 茶/精神の伝達者      3人の打楽器奏者 — 自然  
 僧侶たち — 宗教      管弦楽 — ドラマ

## あらすじ

### ●第1幕 水、火

#### 第1場

9世紀の京都の古寺。高僧、聖禱が空の茶碗で茶を飲み、僧侶たちに昔語りをはじめ。若き聖禱は日本の皇子として、中国(唐)の都、長安を訪れていた。それは、心を通わせる皇女、蘭との結婚の約束を果たすためであった。

#### 第2場

長安の宮廷では、皇帝の前で皇女の蘭とその弟である皇子が影絵芝居『猿王』を見ている。仲睦まじい親子。そこに聖禱が現われる。

皇子は蘭への想いのあまり聖禱への憎悪をあらわにする。そこに、ペルシャの王子から、皇子の所有する『茶経』を馬千頭と交換したいとの申し出が伝えられる。しかし、この『茶経』は偽物と聖禱は見破る。落胆する皇帝。激しくやり合う皇子と聖禱。聖禱は『茶経』の著者である茶聖、陸羽に真実を語らせようと、皇子と生死を賭ける。悲嘆にくれる蘭。

### ●第2幕 紙

聖禱と蘭は『茶経』を求めて南方への長い旅に出る。旅の途中、蘭は空の茶碗で茶を飲む。「色を聞き、香りに触れ、音を見、本質

を味わう」。蘭は聖禱に古代の中国王の話聞かせる。若返りの茶の葉の湯につかる王と侍女との官能的な愛の世界が影絵で映し出され、いにしへの愛に導かれた聖禱と蘭もまた愛を交わす。

### ●第3幕 陶器、石

陸羽の娘、陸が儀礼にしたがって茶を点てている。訪れた聖禱たちに陸は、父の逝去を告げ、茶をすすめる。聖禱は空の茶碗で茶をいただき、『茶経』を悪の手に渡さないことが自分の使命と語る。弟は悪かと問いただす蘭。心が離れていく聖禱と蘭に、陸は、ふたりの愛のため、『茶経』を世に広めるため聖禱に渡そうと話す。そ

こに現れた皇子が『茶経』をわがものにしようと剣をかまえる。闘いを止めようと二人の刃の間に入った蘭は、弟の剣を受け息絶える。「死のなかで生きるか、生のために死ぬのか」。陸は聖禱と皇子に問う。死を覚悟して聖禱に剣を渡す皇子。しかし、聖禱はその剣で髪を切り、現世を捨てるのだった。

時は移り、再び9世紀の京都の古寺。高僧、聖禱は空の茶碗で茶を味わう。僧侶たちは歌う。「碗空なれど香り漂い 影消え去りとて夢ふくらむ」。聖禱は呟く。「茶は魂の鏡なり」。

## PROFILE

### 作曲・指揮：タン・ドゥン

Tan Dun, Composer/Conductor

タン・ドゥン(譚盾)は、クラシック音楽、マルチメディア・パフォーマンス、そして東西の伝統の枠を自在に越える創造的なレパートリーによって、世界の音楽界に不朽の足跡を残してきた。代表作にはアカデミー賞、グラミー賞に輝いた映画音楽『グリーン・デスティニー』をはじめ、エディンバラ音楽祭委嘱のオペラ『マルコ・ポーロ』、ヨーヨー・マとボストン響の初演による『ザ・マップ』、ドレスデン音楽祭、ロサンゼルス・フィル、ニューヨーク・フィル、メルボルン響の共同委嘱による『仏陀受難曲』など。指揮者としても活躍し、世界各地の一流オーケストラに定期的に客演指揮者として招かれている。現在、ニューヨークのバード音楽院院長、中国国家交響楽団名誉芸術顧問、メルボルン交響楽団芸術アンバサダー、ユネスコ親善大使。中国湖南省出身。



### 演出：シャーウッド・フー

Sherwood Hu, Stage Director

「中国から登場した最も刺激的でダイナミックな演出家の人」(『ハリウッド・リポーター』誌)。ニューヨークのパブリック・シアターにてジョセフ・パップのもとで舞台演出を学ぶ。映画監督としては、初の長編映画『蘭陵王』が中国古代神話を題材とした叙事詩的作品として数々の賞を受賞。その他、代表作に『喜瑪拉雅王子(ヒマラヤ王子)』『上海キング』など。2010年には上海万博の上海館総合クリエイターを務めた。舞台演出においても幅広く活躍し、代表作には、新作京劇『新龍門客棧』、影絵と映像を融合させた『マジック・パペッツ』、タン・ドゥン作曲のオペラ『TEA』などがある。新作影絵芝居『九色の鹿』は、第25回セルビア国際芸術祭にて最優秀作品賞受賞。最新のプロジェクトでは映像と交響曲を融合させた『女神』、そして26年には『日円明園 馬首』の上演を予定している。また、フランス・F・コッパラ製作映画『Lani Loa-The Passage』の初中国人監督でもある。上海交通大学教授。



### 聖嚮(日本の高僧)：マテー・ヘルツェグ(バリトン)

Seikyo (Japanese Monk): Máté Herczeg, Baritone

リスト音楽院、モーツァルトウム大学で学び、オペラ修士号取得。エヴァ・アンドール、ヨーゼフ・シマーンディ両国際声楽コンクール入賞。欧州主要劇場や音楽祭に出演し、ザルツブルク音楽祭には20回以上出演。モーツァルトからロッシニ、宗教曲まで幅広いレパートリーを持つ。2026年4月『TEA』ブダペスト公演に出演し、高評を得た。



### 蘭(唐の皇女)：ルーシー・フィッツ・ギボン(ソプラノ)

Lan (Chinese Princess): Lucy Fitz Gibbon, Soprano

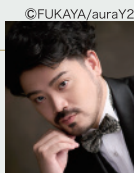
「まばゆいばかりの名人芸的な歌唱」(『ボストン・グローブ』紙)と評され、ルネサンスから現代に至るまで幅広いレパートリーを持つ。アメリカ交響楽団と共演しカーネギーホール・デビューを果たすほか、全米各地のオーケストラと共演。2016年よりマルボロ音楽祭に参加。『TEA』には23年の上海公演より出演。現在、ニューヨークのバード音楽院教員。



### 唐の皇子：石井基幾(テノール)

Prince: Motoki Ishii, Tenor

2023年『TEA』上海公演に初の日本人キャストとして抜擢され、25年福建省・福州、香港公演にも出演、高い演技力が評価された。今年4月にはブダペスト公演にも出演。東京・春・音楽祭2024リッカルド・ムーティ指揮『アイダ』に伝令役で出演。サントリーホール オペラ・アカデミー アドバンス・コース第5期修了。現在、同アシスタント・ファカルティ。



### 唐の皇帝：アポロ・ウォン(バス)

Emperor: Apollo Wong, Bass

香港出身の指揮者、バス・バリトン歌手。『ドン・パスクワレ』『フィガロの結婚』題名役ほか数多くのオペラに出演。様々な宗教曲では、指揮を行いながらバス独唱を務める。現代音楽にも積極的に関わっており、2025年には『TEA』香港公演に出演。現在、香港フィルハーモニー合唱団の合唱指揮者。香港大学学生によるThe Learners ChorusおよびThe Learners Orchestra音楽監督。



### 陸(陸羽の娘)：イン・デン(メゾ・ソプラノ)

Lu (Daughter of Tea Sage Luyu): Ying Deng, Mezzo-Soprano

内モンゴル出身。2024年7月、チューリヒでV. カサロヴァのマスタークラスを受講し、修了審査で第1位を獲得。同年9月、上海音楽学院オペラハウスとボルドー歌劇場共同制作のオペラ『カルメン』題名役を務めた。25年3月には『TEA』福建省・福州公演に出演。同年9月、第9回Premiere Opera財団国際声楽コンクールアジア予選プロフェッショナル部門第3位受賞。



### 3人の打楽器奏者 Three Percussionists



チェンチュ・ロン  
Chuchu



稲野珠緒  
Tamao Inano



神田佳子  
Yoshiko Kanda

### 僧侶たち：新国立劇場合唱団

Monks: New National Theatre Chorus

### 東京フィルハーモニー交響楽団

Tokyo Philharmonic Orchestra

## チケット料金

S席:24,000円 A席:18,000円 B席:12,000円 U25席:3,000円

※U25席は字幕が見えない可能性があります。サントリーホールチケットセンター(WEB・電話・窓口)のみ取り扱い。25歳以下、来場時に身分証提示要。お一人様1枚限り。

◎サントリーホール・メンバーズ・クラブ 先行発売：2026年2月21日(土) 10:00～3月6日(金)

※先行期間中は窓口での販売はございません。

◎一般発売：2026年3月7日(土) 10:00～

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017(10:00～18:00、休館日を除く)

サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB [suntoryhall.pia.jp](http://suntoryhall.pia.jp)

チケットぴあ [t.pia.jp](http://t.pia.jp) / イープラス [eplus.jp](http://eplus.jp) / ローソンチケット [l-tike.com](http://l-tike.com)

※内容に変更が生じる場合がありますので、あらかじめご了承ください。 ※就学前のお子様は同伴・入場いただけません。

公演詳細はこちら ▶

